

## 授業の考察 < 中学校 > 「友達のトラブルを解決する方法を知ろう」

### 考察の視点

支え合う人間関係を築くための支援の在り方として、ピア・メディエーションに関する活動プログラムの開発をしてきました。この活動プログラムの有効性について、中学校5時間の授業を、以下の、の2点を視点に考察します。

#### 授業の考察の視点

本時のねらいを達成できたか  
次時につながる内容であったか

なお、考察のために抽出した生徒の記述については、ワークシートと振り返りシートの記述を直接引用しています。

### 本時のねらいを達成できたかについての考察

は成果、は展開案やワークシート等の修正等に関する内容です。

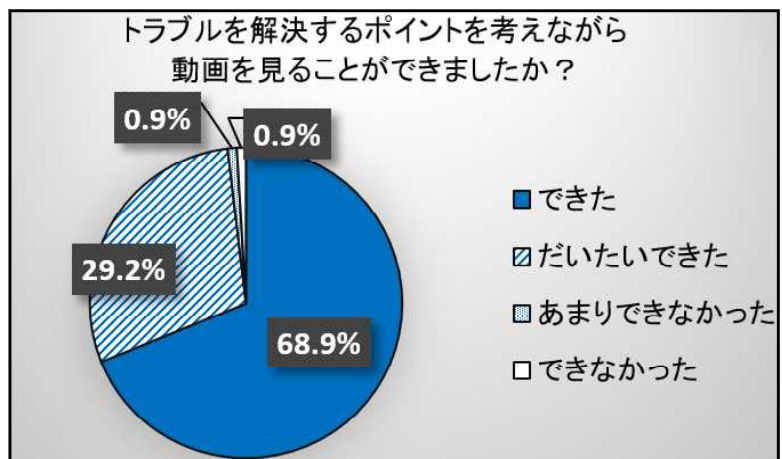
本時のねらいを達成できたかを、次の表1の「本時のねらいを達成することができたかを判断する目安」を基に、ワークシートの記述及び振り返りシートの結果と記述から考察します。

表1 本時のねらいを達成することができたかを判断する目安

- ・ 振り返りシートの質問項目「トラブルを解決するポイントを考えながら動画を見ることができましたか」で、「できた」「だいたいできた」の合計が80%以上であること
- ・ 振り返りシートの質問項目「トラブル解決のポイントがわかりましたか」で、「分かった」「だいたい分かった」の合計が80%以上であること

#### 1 トラブルを解決するポイントを考えながら動画を見ることのできたかについて

振り返りシートの「トラブルを解決するポイントを考えながら動画を見ることができましたか」の質問に対して「できた」「だいたいできた」と回答した生徒の合計は97.1%で、ほとんどの生徒がトラブルを解決するポイントを意識して動画を見ることができました(資料1)。



資料1 トラブルを解決するポイントを考えながら動画を見ることのできたかのアンケート結果 (振り返りシートより)



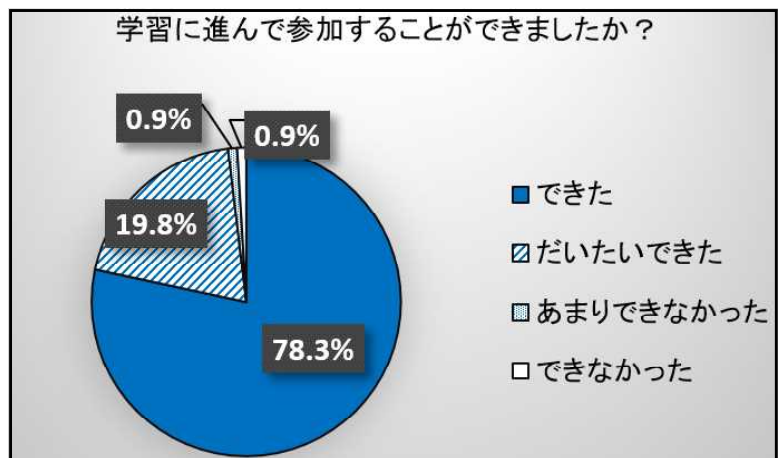
表2の「次時につながる内容であったかを判断する目安」を基に、ワークシートの記述及び振り返りシートの結果と記述から考察します。

表2 次時につながる内容であったかを判断する目安

・振り返りシートの質問項目「学習に進んで参加することができましたか」で、「できた」「だいたいできた」の合計が80%以上であること
・振り返りシートの質問項目「今日の学習の前後で、トラブルを解決することについての考え方が変わりましたか」で、「変わった」「少し変わった」の合計が80%以上であること
・振り返りシートの質問項目「今日学習した内容をこれからの生活に生かしていきたいと思えますか」で、「思う」「少し思う」の合計が80%以上であること

1 学習に進んで参加することができたかについて

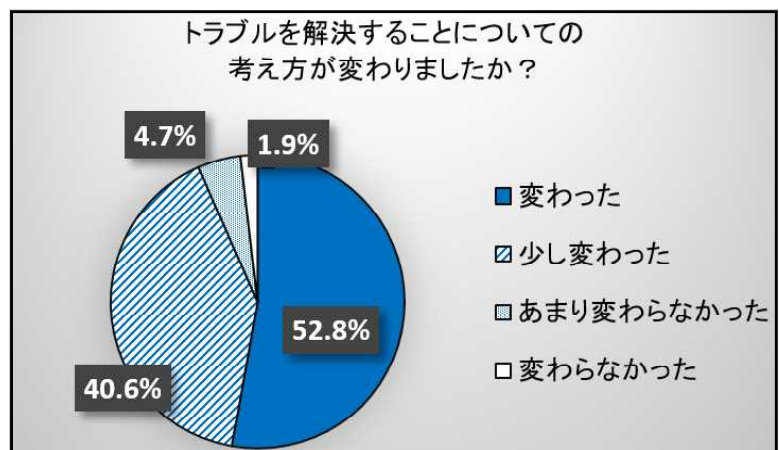
振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して「できた」「だいたいできた」と回答した生徒の合計は98.1%で、ほとんどの生徒が学習に対して意欲的に取り組んだことが分かりました（資料5）。



資料5 学習への参加状況についてのアンケート結果（振り返りシートより）

2 学習の前後の怒りについての考え方の変化について

振り返りシートの「トラブルを解決することについての考え方が変わりましたか」の質問に対して「変わった」「少し変わった」と回答した生徒の合計は93.4%で、ほとんどの生徒が学習の前後でトラブルを解決することについての考え方が変わったことが分かりました（資料6）。その理由として、トラブル解決のポイントを学習することで、もめている当事者の間に入ることに對する考え方が変わったことや、平等に話を聴くことの大切さに改めて気付いたことを挙げていました（次頁資料7）。



資料6 トラブルを解決することについての考え方の変化についてのアンケート結果（振り返りシートより）

あまりトラブルにまきこまれたくないと思ってきてきたことが  
とめに入ろうも思うようにたつたから

前は、中まいいに入ってもらえなくて  
考え方が変わったからです。

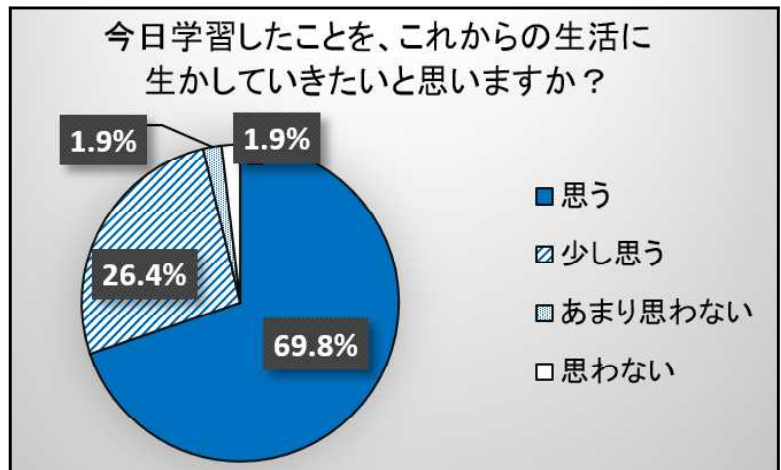
前まではどちらかの側かたになって。という考え方があったけど、今日の授業  
 で、おたがしの話を聞いてあつる事が大切なんだなと思つた。

自分が争いを解決しようとするときに、以前は解決策を止してしまつた  
 と思うが、今後はトラブルの当事者である人に解決策を本してもらおうと思つたから。

資料7 トラブルを解決することについての考え方が「変わった」「だいたい変わった」と答えた生徒の記述(振り返りシートより)

3 学習内容の今後の活用について

振り返りシートの「今日学習したことをこれからの生活に生かしていきたいと思つていますか」の質問に対して「思う」「少し思う」と回答した生徒の合計は96.2%で、ほとんどの生徒が、トラブルを解決するポイントを生かしてみたいと考えていることが分かりました(資料8、9)。



資料8 学習内容の今後の活用についてのアンケート結果(振り返りシートより)

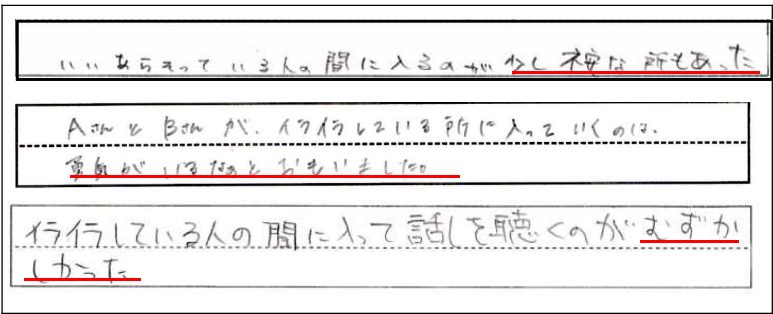
Cさん役の人は必ず平等に話を聞かないとい  
 けないのだなと思つた。よく部活でもめるので  
 今日の学習を生かしていきたいです。

資料9 学習内容の今後の活用についての生徒の記述(ワークシートより)

これからの生活に生かしていきたいという感想が多かった半面、現実場面で実行できるのかという不安を感じたり、もめている間に第三者が入ってくることに抵抗を感じたりしていた生徒も見られました。これまで、そのような経験をしたことがなかったり、第三者が入ることで事態が悪くなったりした経験をしたことがある生徒にとっては、自然な反応であると考えます（資料10）。

トラブル解決の学習において、当事者の間に入ることに對する生徒の不安感や抵抗感があることを踏まえ、4時目の学習の終末でトラブル解決のポイントを学習する意義をpushさえるように展開案を修正しました。

以上のことから、本時の授業が本時のねらいを達成する内容であるとともに、生徒が学習に参加したり学習内容を活用したりする意欲が見られ、次時の学習につながる内容であったことが分かりました。



資料10 学習内容の今後の活用についての生徒の感想  
(振り返りシートより)